

日本工学院八王子専門学校	開講年度	2019年度（平成31年度）	科目名	社会福祉論	
<b>科目基礎情報</b>					
開設学科	こども学科	コース名		開設期	前期
対象年次	1年次	科目区分	必修	時間数	30時間
単位数	2単位	授業形態	講義		
教科書/教材	毎回レジュメ・資料を配布する。参考書・参考資料等は、授業中に指示する。				
<b>担当教員情報</b>					
担当教員	北原零未	実務経験の有無・職種	無		
<b>学習目的</b>					
<p>保育や児童養護、子ども家庭福祉が日本の福祉の中でどのような位置づけにあるかを知るためには、社会福祉全般を知る必要がある。社会福祉が戦争や災害といった不幸な歴史を踏まえて試行錯誤の末に登場したことや、現在の日本の福祉が社会的なニーズに追いつかない状況であるといった現状を受け止めつつ、では今社会は何を欲しているのか、その社会の一構成員として、保育士として自らに何ができるのか、自分のことにひきつけつつ、福祉の知識を深めることが目的である。</p>					
<b>到達目標</b>					
<p>まず社会福祉とは何か、何故必要なのか、いつどのようにして生まれ現在に至るのか、日本が抱える課題は何かを理解できるようになることが目標である。その上で、保育士として何をすべきなのか、今何が求められているのかを具体的に考え、実践できるようになることを目指す。</p> <p>さらには、福祉を学び、福祉分野で働く者として極めて重要な視点である「相互性」を自覚することが目標である。福祉は誰かが一方的に誰かを支援するものではない。誰もが担い手であり、誰もが福祉の対象であるという自覚が不可欠である。</p>					
<b>教育方法等</b>					
授業概要	基本的には講義形式であるが、福祉の基本は相互理解と協力であることから、極力個人ワークやグループワークを採り入れる予定である。福祉に対する意識や見解、理解度は当然ながら人それぞれ異なる。他者の意見（あるいは福祉に対するイメージ）を聞くことで、より理解が深まり、新たな知見が見いだされるようにする。				
注意点	私語等他者に迷惑を掛ける行為は論外（退席を命ずる）。また、他者に迷惑を掛けておらずとも、内職・居眠りなどは欠席と見なす。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める（詳しくは、最初の授業で説明）。学校が特殊事情として認めた場合を除き、遅刻や欠席は認めない。10分以上の不在（遅刻・早退・中抜けを問わず）は、欠席と見なす。授業時数の4分の3以上出席しない者には単位を認めない。				
評価方法	種別	割合	備考		
	まとめ試験	50%	最終的な理解度・習熟度を確認するために実施する		
	小テスト	25%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	課題・宿題	25%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	成果発表 (口頭・実技)	0%			
平常点	0%	遅刻・欠席・妨害などは減点するが、出席しているからと言って加点はしない。			
<b>授業計画（1回～15回）</b>					
回	授業内容	各回の到達目標			
1回	社会福祉とは何か	そもそも社会福祉とは何かを知る			
2回	社会保障制度の中の社会福祉	日本の社会保障の中で「福祉」はどのような位置づけにあるのかを理解する			
3回	現代社会と社会福祉の意義	様々な困難を抱える現代社会にあって、福祉がどのような役割を果たしているのか学ぶ			
4回	社会福祉の法体系と実施体系(1)	制度の根拠となる法律は何か、その制度を実際に実施しているのはどこかを知る			
5回	社会福祉の法体系と実施体系(2)	制度の根拠となる法律は何か、その制度を実際に実施しているのはどこかを知る			
6回	社会福祉の法体系と実施体系(3)	制度の根拠となる法律は何か、その制度を実際に実施しているのはどこかを知る			
7回	社会福祉援助技術の概要(1)	社会福祉制度としての援助技術にはどのようなものがあるかを知る			
8回	社会福祉援助技術の概要(2)	実際に社会福祉援助技術を身に付ける			
9回	社会福祉専門職について	社会福祉専門職にはどのようなものがあるかを知り、専門職としての「保育士」を自覚する			
10回	社会福祉の動向(1)	社会福祉の現状と傾向を知る			
11回	社会福祉の動向(2)	社会福祉の現状と課題を検討する			
12回	利用者の権利擁護制度（1）	社会福祉の各制度利用者の権利はどのように擁護されているのか、その実際を理解する			
13回	利用者の権利擁護制度（2）	利用者の権利はなぜ保護されるべきなのか、福祉と人権の関係を学ぶ			
14回	社会福祉の展望	これまで学んだことを踏まえて今後の展望を模索する			
15回	総括	全14回の振り返りとまとめ			